

幸福は日々の中に。

僕たちは、彼らに社会の秩序というものを教える立場ではない。
彼らから精神的な秩序を学ぶべきだ。 学園長 福森伸



時が止まったような不思議な居心地の良さ、もしかしたら未来の世界なのか、そんな目眩のような感覚に襲われるのは何故だろう。しょうぶ学園では「ノーマル」と「スペシャル」の境界を超えて、私たちは「人」として日々なにを共有しているのか再確認することができる。

現代社会はさまざまな局面で、寛容さを失い始めているように思えてならない。この作品は、多様さとか寛容さとはなんなのか、説明抜きに伝えてくれるだろう。



今まで当たり前だと信じてきたことが、
少し違った風景となり見えてくるかもしれない。

しょうぶ学園のアート、クラフト作品の展示は東京都美術館の「楽園としての芸術」展(2015年)をはじめ全国各地で開催され、nui projectのシャツは初日でほぼ完売が定番。音楽隊のotto&orabuも日本各地で公演し、音楽家の高木正勝やUA、おおたか静流らとの共演も多数。アート、クラフト、音楽ともに全国に熱烈なファンを持つ。作品に魅了されしょうぶ学園を訪れた人々は、園生が働くカフェでパスタを食べながら「人生が変わるような体験」と思わず口に出す…。不思議な風景に出会う73分。

90年代に伝説となったインディペンデント映画『ステップ・アクロス・ザ・ボーダー』を制作したドイツ人映像作家ヴェルナー・ベンツェルと、『島の色豊かな声』(08)を制作した、写真家でもある茂木綾子による共同監督作品。

芸術という行為は、心の奥底で震えている命の鼓動の発散なのだと思う。

その鼓動を心から外に出すためには、心の摩擦がない

とても純粋な心の通り道が必要な気がする。

ミナ ペルホネン 皆川明



しょうぶ学園とは?(鹿児島市吉野町)

障がいを持つ人たちが地域社会でよりよく暮らしていくために、友好的で安全で、のびのび過ごせる環境を提供している。ものづくりを通し、人が本質的に備えている創造する力を引き出し、協働を通してよこぎをわかちあえるコミュニティーづくりを実践している。人と人がささえあい、つながりあい、つくりだす暮らし、創造的な福祉事業の可能性に貢献し続けている。敷地内には、入所、通所のための施設に加え、カフェ、ベーカリー、蕎麦屋、工房、ギャラリー、ショップなどが点在する。園生と職員による音楽隊otto&orabuは日本各地で公演している。

日 時： 11月6日(月) 10時30分 / 13時30分 / 18時00分

会 場： 仙台市福祉プラザ2階ふれあいホール

入 場 料： 前売り1,000円(当日1,200円) 高校生・大学生800円

主 催： 社会福祉法人なのはな会・なのはな後援会

事 務 局： 022-275-3878 (仙台市なのはなホーム内)